

日本音楽表現学会第 14 回（メム）大会特集

目	次
【巻頭言】四面楚歌の音楽	後藤 丹 2
日本音楽表現学会第 14 回（メム）大会報告	3
2016 年度総会報告	3
異例な寒さとハプニングを乗り越えて—第 14 回メム大会を終えて—	土門 裕之 10
参加者の声：これこそ求めていた世界	堀 響介 11
メム大会に参加して	上原由紀音 11
発表者の感想—自律神経がつなぐ音楽の仲間たち	中 磯子 11
司会者の立場から	兼重 直文 11
大会スナップ集（グラビア）	13
【随想】基調講演に触発されて—平田オリザ著『下り坂をそろそろ下る』	中村 滋延 12
新入会員紹介	17
日本音楽表現学会後援コンサート等情報	18
会員による新刊	20
教員公募情報	20
『音楽表現学のフィールド 2』発刊間近—会員特別価格による購入受付開始！	21
事務局からの重要なお知らせとお願い	22
各種書式（含・『フィールド 2』購入申込書書式）	23
『音楽表現学のフィールド 2』読後感想文募集	24
日本音楽表現学会第 15 回大会のご案内	24
2016 年度役員・委員等一覧	24
編集後記	24

日本音楽表現学会



所在地：〒 616-8025 京都市右京区花園土堂町 1-6

事務局：同上

Tel. 075-462-1388

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/>

年会費：5,000 円

振込先：郵便振込口座 01370=6=78225 日本音楽表現学会

四面楚歌の音楽

後藤 丹 (会長／作曲)

「四面楚歌」という故事成語が結構好きだ。と言っても、会長になって早々に困難な状況に追い込まれたわけではない。ただ単に、夜半に突然周囲から歌声が湧き起る情景は壮絶で幻想的で美しいだろうと思うだけ。おそらくは「楚」という国名も微妙に作用しているのだろう。「楚々とした美人」などと言うではないか。これが例えば、「四面漢歌」などだと、不思議とあまり麗しい感じがしないし、悲劇性も薄まる気がする。ちなみに、「四面楚歌」という言葉は現代中国でも日常的に用いられているようだ。

「史記」に記されたこのできごとについて、私は最近まで少し誤解をしていた。単純に、四方から敵国の歌が響いて来たので絶体絶命を悟ったのかと思っていたのだ。

事実はそうではなく、楚の項羽の軍勢が劉邦の率いる漢軍に囲まれた時に、故郷の楚の歌が聞こえてきたのである。漢軍や寝返った元味方の兵士たちが懐かしい楚の歌を歌うのを聴いたときの衝撃は大きかったのだろう。項羽は恋人の虞美人とのラブシーンの後、辛くもその場から脱出するが、敗走した末に自ら命を絶つ。

この史実を仮に、より身近な第二次世界大戦に置き換えてみると、南洋の島で米軍に囲まれた日本軍が英語訛りの《さくら、さくら》を耳にしたようなものか。さぞ不気味なことだろう。

その連想から、ある映画のシーンが浮かんできた。市川崑監督の「ビルマの豎琴」(1956年、音楽：伊福部昭)である。夜営中の井上小隊長率いる部隊の兵士たちが《埴生の宿》を合唱すると、周りを取り囲んでいた英国の兵士たちが原曲の《ホーム・スイート・ホーム》を歌って応えるという場面。この歌声を聞いたときに日本軍兵士たちが味わったのは「四面楚歌」の恐怖ではない。祖国は違っても同じ歌を愛唱する人間同士の連帯感であ

ろう。やがて戦場は2カ国語による感動的な大合唱となる。井上小隊長が音楽学校の出身で、普段から兵士たちに歌の訓練をしていたことも幸いした。あまりに下手だったら、挑発していると思われ、攻撃される危険さえあったかもしれない。実は、その3日前に日本は降伏していたのだが、井上部隊はそれを知らなかった。映画ではこの場面によって平和の到来を象徴させたのだろう。ここで双方にとっての望郷の歌を用いたセンスは素晴らしいと思う。

話を戻す。「史記」の四面楚歌の歌が実際に何の曲であったのか？どんな風に響いたのか？なにしてる2200年も昔の話だから正確に調べることは不可能だろう。楚の音楽はリズムカルなものが多かったとも。ひょっとして太鼓など打楽器を伴っていたのだろうか？《離騷》という歌が民謡化した曲だという説があるらしい。もしそうだとすると、これもまた望郷の歌で、この状況にふさわしい気がする。

ともあれ、音楽の力を用いて歴史を変えたこの一夜は、壮大にして劇的な音楽表現の場だったはずだ。今、その遙かな歌声に深く思いを馳せる。



〈項王〉『歴代君臣図像』国立国会図書館蔵
(デジタル大辞泉 2016年7月1日閲覧)

日本音楽表現学会第14回（メム）大会報告

2016年度総会報告

日 時：2016年6月4日（土）16:00～17:20

場 所：拓殖大学北海道短期大学スノークリスタルホール

出席者数：130名、委任状 237通 合計 367名（定足数：会員総数 512名の 1/3以上）

記 録：大内邦靖

1. 開会の辞：奥忍事務局長によって総会の成立が述べられた。
2. 議長・記録選出：会員の総意によって議長に杉江淑子さん、書記に大内邦靖さんが選出された。
* 緊急動議があり、関連する報告と協議が順を入れ替えて冒頭に配置された。

3. 報告

1) 2016-17年度会長・理事選挙結果報告

鈴木慎一郎選挙管理委員長より【資料1-1】に基づき報告があり、承認された。

【資料1-1】2016-17年度会長・理事選挙結果

	役 職	候補者氏名	得票数
1. 有権者数 :	会 長	後藤 丹	240 票
2. 投票者総数 :	理 事	安藤 珠希	222 票
3. 有効投票数 :		應和 恵子	225 票
4. 無効票 :		海津 幸子	226 票
5. 有効投票数における各候補者の得票数 →		加藤富美子	234 票
		草下 實	231 票
		小西 潤子	230 票
		豊田 典子	223 票
		藤原 嘉文	228 票

続いて安藤政輝会長より理事候補者 草下實会員から体調不良のため就任を辞退したいとの意向が文書で届いたとの報告があった。

* 4. 協議

1) 緊急動議 2016-17年度会長・理事補欠選挙について

安藤政輝会長より補欠選挙実施の根拠及び選挙日程設定の根拠が示され、採決の結果、補欠選挙を行う事に決した。鈴木慎一郎選挙管理委員長によって補欠選挙公示が行われ、投票を実施した。その結果、木下千代会員が理事候補として選出された。候補者と選挙結果は以下の通りである。

【資料1-2】補欠選挙の候補者と選挙結果*

立候補者	なし	
被推薦者	木下 千代	
推薦者	菅 道子、小野 亮祐	
投票結果	投票総数	98 票
	有効投票数	98 票
	得票数	95 票
	白票	3 票

*総会出席者数と投票総数の差は、実行委員等を担当しており、その作業のために投票時に不在になった会員が存在するためである。

3. 報告

2) 2015 年度事業報告

奥忍事務局長により【資料3】に基づき報告があり、承認された。

【資料3】	2015 年度事業報告		(2015 年 4 月 1 日～2016 年 3 月 31 日)
1. 第 13 回 (美ら島) 大会	2015 年 6 月 20 日 (土) ～ 21 日 (日)	於：沖縄県立芸術大学	
2. 2015 年度理事会	第 1 回 2015 年 6 月 20 日 (土) 10:00-12:00	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回 2015 年 11 月 29 日 (日) 11:00-16:00	於：ウィングス京都	
	第 3 回 2016 年 3 月 27 日 (日) 10:00-16:00	於：京都アスニー	
	その他 電子媒体による持ち回り会議		
3. 学会誌編集委員会	第 1 回 2015 年 6 月 20 日 (土) 10:00-12:00	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回 2015 年 8 月 15 日 (土) 10:00-17:00	於：かつしかシンフォニーヒルズ	
	第 3 回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
4. 『フィールド2』編集委員会	第 1 回 2015 年 6 月 21 日 (日) 17:00-19:00	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
5. 著作権ワーキンググループ	第 1 回 2015 年 6 月 20 日 (土) 18:00-18:30	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回以降	電子媒体による持ち回り会議	
6. 『音楽表現論文執筆のしおり』ワーキンググループ	第 1 回 2015 年 6 月 20 日 (土) 12:00-13:00	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回 2015 年 8 月 15 日 (土) 17:00-19:00	於：かつしかシンフォニーヒルズ	
	第 3 回以降	電子媒体による持ち回り会議	
7. 選挙管理委員会	第 1 回 2015 年 6 月 21 日 (日) 17:00-19:00	於：沖縄県立芸術大学	
	第 2 回 2016 年 2 月 8 日 (月) 13:00-16:00	於：学会事務所	
	第 3 回 2016 年 3 月 23 日 (水) 13:30-17:00	於：学会事務所	
8. 学会誌『音楽表現学』Vol.13 発行	2015 年 11 月 30 日 (月)		
9. ニュースレター発行	No.1 2015 年 7 月 31 日 (金)		
	No.2 2015 年 11 月 30 日 (月)		
	No.3 2016 年 3 月 31 日 (木)		
10. 『音楽表現論文執筆のしおり』発行	2015 年 11 月 30 日 (月)		
11. 後援	24 件		
12. 会員数	501 名 (3 月 31 日現在)		

3) 第 13 回 (美ら島) 大会決算報告

小西潤子大会実行委員長より【資料4】に基づき報告があり、承認された。

【資料4】第 13 回美ら島大会収支決算報告

【収入】	費 目	金 額	備 考	[参考] 予算
大会参加費		836,000	学会員：5,000 円×139 名= 695,000 円 当日会員：3,000 円×43 名= 129,000 円 学生会員：2,000 円×6 名= 12,000 円	920,000
	広告・ブース料	330,000		340,000
	『大会要項』販売	600	300×2 = 600 円	
	雑収入	3,200	ポロシャツ売上	
	合計	1,169,800		1,260,000
【支出】	費 目	金 額	備 考	[参考] 予算
大会事業費	オープニング演奏経費	20,000	謝礼等必要経費	20,000
	基調講演経費	10,000	講師謝礼・協力者謝礼等	20,000
	ワーク・シンポ等経費	20,000	謝礼・協力者謝礼, クリーニング等	20,000
	分科会経費	0	統一テーマ等必要経費	0
	会議費	28,640	含・各種委員会昼食代等	40,000
	事務局スタッフ経費	124,581	含・宿泊&交通費	200,000

	表敬訪問経費	73,540	宿泊・交通費、手土産等 3,240 円	100,000
	会場借用料	0		0
	学生アルバイト謝金	224,600	準備期間バイト代 43,000 円 学生アルバイト代 181,600 円	150,000
	同 昼食代	18,200	700×26 名 (20・21 日) = 18,200	7,350
印刷・作成費	『大会要項』	448,096		600,000
	ポスター・チラシ	62,680	プログラム・ポスター	0
	会場各種表示	0		0
通信費		33,922	『大会要項』学会グッズ発送費	50,000
交通費		0	実行委員会開催にかかる	0
文具費		270	トナー、用紙、その他	1,000
雑費	ポロシャツ作成・クリーニング	68,496	20 着+版代 = 56,160 円 クリーニング 24 枚 × 514 = 12,336 円	41,300
	参加者控室用茶菓など	7,371		10,350
小計		1,140,396		1,260,000
	一般会計への繰り入れ	29,404		
	合計	1,169,800		1,260,000

懇親会

【収入】	費 目	金 額	備 考	[参考] 美ら島大会予算
	参加費	530,000	5,000 円 × 106 = 530,000	400,000
	合計	530,000		400,000
【支出】	費 目	金 額	備 考	[参考] 美ら島大会予算
	懇親会費	500,140	5,000×85 = 425,000 他、 控室オードブル、盛り花など	400,000
	アトラクション	28,000	沖縄県立芸術大学琉球芸能専攻	
	一般会計へ繰り入れ	1,860		
	合計	530,000		400,000

4) 2015 年度財務報告・監査報告

應和恵子財務担当理事より【資料 5】に基づき報告があり、また、渡会純一監事より、2015 年度会計処理が適正に行われており、会計報告に問題がないことが報告された。会計報告・監査報告ともに承認された。

【資料 5】 2015 年度会計報告・監査報告

【収入】	費 目	決 算	予 算
学会年度会費	一般会員 485 延べ※	2,416,000	2,400,000
	賛助会員 (静岡大学)	5,000	5,000
学会誌売上		62,923	50,000
利息		1,204	1,000
大会からの繰り入れ		31,264	0
小 計		2,516,391	2,456,000
前年度繰越		2,686,060	2,686,060
学会基金		3,700,000	3,700,000
合 計		8,902,451	8,842,060
【支出】	費 目	決 算	予 算
『音楽表現学』	作成・印刷費	542,668	800,000
	ニューズレター	127,431	120,000
名簿 (奇数年)	作成・印刷費	0	0
	理事会	21,464	25,000
編集委員会	会議費	320,222	350,000
	交通費	4,470	15,000
	資料作成	273,250	300,000
論文集「フィールド 2」	出版補助	0	5,000
	論文執筆のしおり	300,000	300,000
選挙管理委員会 (偶数年)	印刷費・資料コピー代	29,218	60,000
	会議費	1,080	10,000
	交通費	40,900	40,000
	郵送料	41,000	80,000
	封筒作製費	7,285	6,000

	選挙公示文書等作成費	3,460	-
	選挙公示文書印刷費	33120	-
通信費		175,901	300,000
払込手数料		7,560	10,000
事務局費		111,589	250,000
雑費		89,878	100,000
大会関連費		0	100,000
予備費		0	100,000
小計		2,130,496	2,971,000
次年度繰越金		2,271,955	1,371,060
学会基金		4,500,000	4,500,000
合 計		8,902,451	8,842,060

※滞納徴収分が含まれ、前年度までの既納入分は除かれている。すなわち、年度中に納入された年会費延べ人数分である。

以上の通り報告いたします。

2016年5月15日

財務

小畑 郁男 (印) 應和恵子 (印)

監査の結果、以上に間違いありません

監査

谷口 雄資 (印) 渡会 純 (印)

5) 年会費納入状況

應和恵子財務担当理事より【資料6】に基づき報告があった。2013年度より3年間未納の会員が11名(3/31現在)。内1名が既に手続き中であり、対象者は10名となった。その10名の対応については審議事項となった。

【資料6】年会費納入状況

*3年間年会費滞納による除名については審議事項

会員数	未納状況
501名 (新入会員47名)	2013年度 10名
	2014年度 21名
	2015年度 45名

6) 『音楽表現学のフィールド2』進捗状況について

小野亮祐『音楽表現学のフィールド2』編集委員長より【資料7】に基づいて進捗状況が報告された。予定より早まり、9月頃の発刊予定で進んでいるとの報告があった。【資料7】『音楽表現学のフィールド2』は本紙p.21『音楽表現学のフィールド2』発刊間近と重複するためここでは執筆者名のみを挙げる。内容の詳細についてはそちらをご参照下さい。

【資料7】『音楽表現学のフィールド2』執筆者

河村 晴久、奥村 治、山名 敏之、北山 敦康、仲戸川智隆、中村 隆夫、谷口 雄資、澤田まゆみ、安藤 珠希、石場 惇史、齊藤 祐、齊藤 武、海津 幸子、中村 滋延、大竹 紀子、吉川 和夫、原田 博之、上田 益、佐々木正利、三島 郁、榎山 陽子、上山 典子、竹内 直、曾田 裕司、水戸 博道

7) その他 なし

4. 協議

2) 2016年度事業計画について

奥忍事務局長より【資料8】に基づいて提案があり、承認された。

【資料8】

2016年度事業計画

(2016年4月1日～2017年3月31日)

1. 第14回(メム)大会	2016年6月4日(土)～5日(日)	於：拓殖大学北海道短期大学
2. 2016年度理事会	(新旧合同) 2016年6月4日(土) 10:00-12:00	於：拓殖大学北海道短期大学
	新理事第1回 2016年6月5日(日) 17:00-18:00	於：拓殖大学北海道短期大学

	第2回	2016年12月初旬	於：未定
	第3回	2017年3月下旬	於：未定
	その他	電子媒体による持ち回り会議	
3. 学会誌編集委員会	第1回	2016年6月4日(土) 10:00-12:00	於：拓殖大学北海道短期大学
	第2回	2016年8月初旬	於：未定
	第3回以降	電子媒体による持ち回り会議と編集作業等	
4. 学会誌『音楽表現学』Vol.14 発行		2016年11月30日(水)	
5. 『音楽表現学のフィールド2』 発行		2016年9月30日(金)	
6. 会員名簿2016年度版発行		2016年11月30日(水)	
7. ニュースレター発行	No.1	2016年7月31日(日)	
	No.2	2016年11月30日(水)	
	No.3	2017年3月31日(金)	
8. 後援	35件	(目標値)	
9. 会員数	530名	(目標値) 6月4日現在512名	

3) 会則改定について

安藤政輝会長より【資料9】に基づいて提案があり、承認された。

【資料9】総会における委任状に関する改定

改 定		現 行	
第14条	総会は、年1回、会長がこれを招集し、正会員の <u>5分の1以上</u> の出席(委任状を含む)によって成立する。	第14条	総会は、年1回、会長がこれを招集し、正会員の <u>3分の1以上</u> の出席(委任状を含む)によって成立する。
第15条5	理事会は、本会則第3条に定める事業を行うために編集委員会、その他必要な <u>組織等</u> をおくことができる。 <u>組織</u> の規定は、別に定める。	第15条5	理事会は、本会則第3条に定める事業を行うために編集委員会、その他必要な <u>委員会</u> をおくことができる。 <u>委員会</u> の規定は、別に定める。

4) デザイン室の新設について

安藤政輝会長よりデザイン室新設の提案があり、その業務と運営について説明があった。議論の上、以下のように決定した。

【資料10】デザイン室の位置づけ、業務と運営「学会組織図」参照。

①	会長の直属組織としてデザイン室をおく。開設は2016年7月1日とする。
②	デザイン室の業務は、ニュースレター・大会要項等、印刷物・出版物のデザイン・編集等とする。
③	デザイン室に室長をおく。室長は会長が委嘱し、期限は2年とする。ただし再任を妨げない。
④	室長は必要に応じてスタッフを雇う事ができる。室長とスタッフに対しては、理事会で決定した報酬が支払われる。

5) 第14回(メム)大会予算について

應和恵子財務担当理事より【資料11】について数字の修正提案がなされ、修正を含めて可決した。以下は、修正を施した表である。

【資料11】

第14回(メム)大会予算

(2016年6月4日)

【収入】	費 目	金 額	備 考
	大会参加費	670,000	学 会 員：5,000円×118名= 590,000円 当 日 会 員：3,000円×20名= 60,000円 学 生 会 員：2,000円×10名= 20,000円
	広告・ブース料	430,000	
	雑収入	0	
	合 計	1,100,000	

【支出】	費 目	金 額	備 考
	基調講演講師謝礼	50,000	
	学会企画情報提供者謝礼	100,000	東京からの国立大学旅費規程準拠
	オープニングコンサート謝礼	8,400	昼食等
	学生アルバイト謝金	121,275	770円×(8名×9h)+(9名×9.5h)
	アルバイト昼食代	11,900	700円×17名=11,900
	校舎施設使用料	30,000	
	会議費	40,000	理事会・実行委員会・参事昼食代(1日目のみ)、他
	大会事業経費	100,000	事務局スタッフ宿泊費、交通費、参事前日宿泊費、大会本部経費
	ポロシャツ補充	0	
	同,クリーニング代	0	
	『大会要項』等編集・印刷費	450,000	ちらし、ポスターを含む
	通信費	50,000	『大会要項』発送費等
	交通費	100,000	表敬訪問、他
	文具費	7,000	
	雑費	31,425	
	合 計	1,100,000	

懇 親 会

【収入】	費 目	金 額	備 考
	参加費	500,000	5,000円×100=500,000
	合計	500,000	
【支出】	費 目	金 額	備 考
	懇親会費	460,000	
	アトラクション	40,000	花材費および活け込み謝礼
	一般会計への繰入	0	
	合計	500,000	

6) 2016年度予算について

應和恵子財務担当理事より【資料12】に基づいて説明と提案があり、原案通り承認された。

中村隆夫会員より名簿の記載内容について質問とコメント記載の要望があり、奥忍事務局長より、次回理事会において検討を行うとの回答があった。

【資料12】 2016年度予算 2016年5月31日現在 会員数511名

【収入】	費 目	2016年度予算	2015年度	
			決 算	予 算
学会年度会費	500名	2,500,000	2,416,000	2,400,000
	賛助会員	5,000	5,000	5,000
寄付		0	0	0
学会誌売上		50,000	62,923	50,000
利息		1,000	1,204	1,000
大会からの繰り入れ		0	31,264	0
雑収入		0	0	0
	小 計	2,556,000	2,516,391	2,456,000
前年度繰越		2,271,955	2,686,060	2,686,060
学会基金		0	3,700,000	3,700,000
	合 計	4,827,955	8,902,451	8,842,060

【支出】	費 目	2016年度予算	2015年度	
			決 算	予 算
『音楽表現学』	作成・印刷費	600,000	542,668	800,000
	ニューズレター	130,000	127,431	120,000
名簿	作成・印刷費*	200,000	0	0
理事会	会議費	25,000	21,464	25,000
	交通費	350,000	320,222	350,000
編集委員会	会議費	10,000	4,470	15,000
	交通費	300,000	273,250	300,000

	資料作成	5,000	0	5,000
デザイン室経費		350,000	-	-
論文執筆のしおり		300,000	300,000	300,000
選挙管理委員会	会議費	-	29,218	60,000
	封筒作製費	-	1,080	10,000
	交通費	-	40,900	40,000
	郵送料	-	41,000	80,000
	印刷費等	-	36,580	
通信費		150,000	175,901	300,000
払込手数料		10,000	7,560	10,000
事務局費		150,000	111,589	250,000
雑費		100,000	89,878	100,000
大会関連費		100,000	0	100,000
予備費		200,000	0	100,000
	小計	2,980,000	2,130,496	2,971,000
次年度繰越金		1,847,955	2,271,955	1,371,060
学会基金		0	4,500,000	4,500,000
	合計	4,927,955	8,902,451	8,842,060

*『2016年度版名簿作成』には作成補助員を雇用する。

7) 年会費滞納による除名処分について

奥事務局長より2013～2015年度未納者10名の氏名が口頭で報告された。その結果、知人を通して連絡を試みたいという願い出があり、再確認することになった。最終的に4名は大会期間中に納入、1名は納入意思を確認、2名は年会費を納入の上退会、以下の3名の除名が確定した。

【資料13】3年間会費滞納による除名

除名(2013・2014・2015年度未納者)：李敬美、石田雪子、篠原真紀子
--

8) 会計監査の依頼について

奥忍事務局長より、以下に示した会員への会計監事委嘱の提案があり、原案通り承認された。

2期目：渡会 純一 1期目：小畑 郁男

9) 会長諮問会議メンバーの委嘱について

次期会長諮問会議メンバーについて、草下實会員の退任と安藤政輝会員の就任案が示され、原案通り承認した。

継続：佐々木正利、杉江 淑子、安田 香

新規：安藤 政輝

10) 著作権に関するワーキンググループ・メンバーの委嘱解除と委嘱について

奥忍事務局長から、安藤珠希会員の理事就任に伴う委嘱解除と近藤晶子会員への委嘱が提案され、原案通り承認した。

安藤 珠希 理由：理事就任

近藤 晶子 オブザーバーから正式メンバーへ異動

11) デザイン室長の委嘱について

安藤政輝会長より奥忍会員への委嘱が提案され、原案通り承認した。

12) 第15回大会開催期日と開催地について

奥忍事務局長より次回大会について、2017年6月17日(土)・18日(日)東京音楽大学で開催する事が提案され、承認された。承認後に加藤富美子会員より挨拶があった。

期日：2017年6月17日(土)・18日(日)

会場：東京音楽大学

13) その他

今年度退任となる役員が紹介され、拍手が送られた。

5. 閉会の辞 奥忍事務局長より総会の議事進行に関する謝辞が述べられ、閉会した。

異例な寒さとハプニングを乗り越えて
—第14回MEM大会を終えて—

MEM大会実行委員長 土門裕之

宿泊やアクセスに不便な北海道の小さな町にある小さな短大、しかも音楽科ではなく保育学科のキャンパスで全国大会が開催されることが決まり、大きな責任と不安を抱えながら準備をして参りました。

ご存知のように北海道は広く、大会当日まで実行委員全員が遠隔地から集まることはとても困難でした。後援依頼や広告集め、臨時運行バスの手配に始まり、大会の3ヶ月前になると、矢継ぎ早に降ってくる作業が続き、時間と闘いながら大会当日を迎えたというのが正直な感想です。不慣れなため、多々ご迷惑をおかけしたのではないかと思います。本当に貴重な経験をさせて頂きましたことに心より感謝とお礼を申し上げます。

6月上旬の北海道は花が咲き乱れ、爽快な青空とともに最も美しく輝くはずだったのですが、大会初日は、最低気温が5度を下回る北海道でも稀な寒さとなりました。校舎内の全館暖房は期間外で使用できず、数少ないポータブルストーブを使用して、基調講演から総会までを乗り切りましたが、本当にご不便をおかけしたと思います。心からお詫び申し上げます。

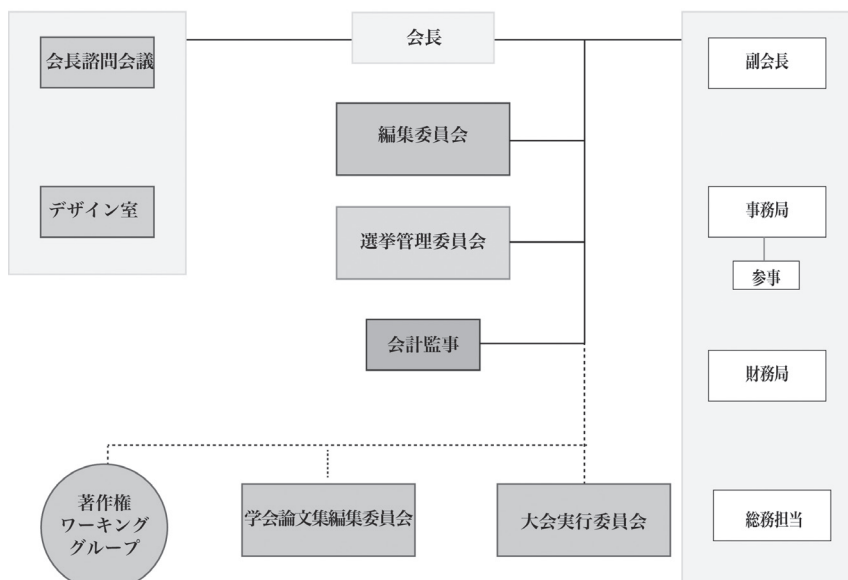
どんなに綿密に準備したつもりでも、想像通り、

想定外のハプニングや問題に多々遭遇しました。その最たるものが、大会前日の夕刻の準備段階で、ドアのサイズが足りなく、グランドピアノがホールに入らないという事件が発生したことです。市民会館や大学職員の努力で、大会当日の朝、ドアを支えているピンを何とか外し、2枚のドアを外して移動幅を確保し、事なきを得たのですが、ピンが外れなかったらと思うと、今でも寒気がするほどです。

「可能な限り諦めずに対応する」という本部役員、そして実行委員会、本学教職員の臨機応変なご対応とご支援のお陰で、何とか大会を終えることができ、心から感謝とお礼を申し上げます。また、保育学科2年生は保育実習期間と重なっていたため、補助学生は全員入学したばかりの1年生でしたが、みなさまの暖かいお声かけに励まされ、最後まで笑顔でご対応させていただけました。学生も私たちも、チームが一丸となっていかに危機に対応するか、様々な学びを深める貴重な体験をさせて頂きました。

実行委員会を代表して、改めて感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございました。

日本音楽表現学会組織図(2016年度)



参加者の声

これこそ求めていた世界

堀 響介（ピアノ・作曲）

大会前日の深夜、降り立った北の大地は6月にもかかわらず微かに息が白くなったのが印象的でした。

翌日会場入りすると会場は何とも言えない空気に包まれており、それに気圧された私は急に不安でいっぱいになってしまいました。しかし大会が始まり、基調講演で坂東園長が語った「ただのアザラシ」エピソードを境に私の中で一瞬にして靄が晴れるのを感じました。音楽でも他の芸術でもない、でも「ただの動物園」だなんてとんでもない！やはり感性はすべてにおいて欠かせないものなのだ！

その後シンポジウム、サロン、懇親会、各分科会と続きましたが、出会った方々に共通して感じたのは形骸化していない「生きた感性」でした。ああ、だから音楽表現学会なのか。これこそが求めていた世界。こんな素晴らしい方々の間に入っていけるなんてなんて幸せなのだろう！

あつという間の二日間、非常に充実した実り多い大会でした。出会った方々への感謝を胸に、より一層の精進を心に誓いたいと思います。

MEM大会に参加して

上原由記音（ピアノ）

5月30日東京でリサイタルを終え、翌日に勤務地の沖縄に戻ってから旭川空港に飛ぶという強行軍で大変でしたが、予想通りとても有意義な学会参加ができました。

まず、旭川から深川に向かいながら清々しい空気と車窓に広がる樹木の美しさに感動致しました。なぜなら、沖縄でガジュマルの大木の荒々しい姿に慣れている私には、涼やかにまっすぐ佇んでいる白樺の繊細さはとても衝撃的で、沖縄と北海道の木々がまったく異なった音楽を奏でているように感じ、この自然の出迎えは、多様な発表に出会える学会にぴったりの幕開けとなりました。

さて、今回も興味深い発表に沢山参加させて頂きました。特にスポーツコンディショニングの視点からピアノ演奏法を考えるワークショップでは、実際に緊張と弛緩の効果的な動きを体験しました。日頃、脱力の指導で色々工夫していますが、このように他分野の研究者と共同研究することの重要性を感じたひと時でした。大会の運営役員の皆様へ感謝申し上げ、次回も色々な分野の方との交流を楽しみにしております。

発表者の感想——自律神経がつなぐ音楽の仲間たち

中 磯子（声楽・音楽と医療）

北海道MEM大会で身体運動、歌唱、自律神経というキーワードで研究発表を行いました。フロアから様々な興味深い質問や感想を頂き、想定範囲を超えたディスカッションの賑わいに、北海道まで来て本当に良かったと感じました。

この日ほど交感神経、副交感神経ということばが飛び交うことはなかったと思えるほど、フロアのみなさまは、音楽と自律神経についてよくご存知であることに困りながらも楽しいひとときを過ごしました。身体運動をしながら歌唱することで自律神経活動が活発になり、副交感神経優位になってリラックスできたり、その逆に交感神経が優位になって眠気が覚めたりすることをみなさんと確認し合う事ができました。

音楽がこれほどまでに人々に与える影響のすごさをあらためて再認識しました。音楽と自律神経は切ってもきれない存在であること。音楽には計り知れない力のあることをもっと多くの人々に知ってもらいたいと強く感じました。音楽と医療の立場を学び続け発信しつづけていきたいと思います。

司会者の立場から

兼重直文（ピアノ）

深川のホームに降り立つと中部国際空港の少々蒸すような気候とは一変、想像を超える寒さにびっくり。金曜日が授業日のため移動できず、“ピアノのサロン”からの参加でした。ここではベートーヴェンの《ピアノソナタ Op.90》の第1楽章の中のある記譜が「レガート」なのか「タイ」なのか、という白熱した意見交換。議論の内容はともかく日頃大学で授業と事務処理に追われている私にとって実に新鮮。このような様々な意見が飛び交う場所こそがやはり自分の居場所であることを再確認した幸せな時間でした。

翌日の分科会では司会デビューとなりました。新海節さんのフレッシュで意欲的なご発表と長年の研究の道程こそありきの田島孝一さんのご発表の担当でした。中でもフロアの大場俊一さんが新海さんのご研究に明快な示唆とともに今後の研究に対して送られた温かいエールが実に印象的、若手研究者の養成をも担う当学会の存在意義を垣間見ることができた温もりあるMEM大会でした。

基調講演に触発されて—平田オリザ著『下り坂をそろそろ下る』

中村 滋延（作曲）

旭山動物園長坂東元氏の基調講演「動物の声を聞く」は、動物の声を講演内で実際に聞くことはありませんでしたし、音楽表現学との表面的な接点もなかったのですが、私にとっては感じるというのがいっぱいある内容でした。

旭山動物園は今や北海道を代表する観光地として定着し、上野動物園や名古屋の東山動物園に次ぐ来園者数を誇ります。過去には「ラッコやコアラ、パンダがいなければ動物園にあらず」というような風潮の中で苦しい時期もあったようです。しかし話題となっている動物を購入して集客をはかるという安易な道を選ぶのではなく、「伝えるのは、命」という基本テーマにそって愚直にやってこられたことが今日の成果につながっています。動物たちへの深い愛情、動物園設置目的への深い理解、動物園職員のやりがい実現への自主努力がその基本テーマを構成しています。それらが動物の自然な行動や生活を見せる「行動展示」として具現化されてきたのです。じつはこうした旭山動物園の実践は「音楽界」にも通じる話なのだと思います。

我々音楽表現学会の会員個々は音楽表現に関することを追究します。しかしそれは音楽表現をする「場」があるという前提があつてこそはじめて可能になるものです。その場は音楽表現の場であると同時に音楽受容の場でもあります。またそれは他者との協働を可能にする場でもあります。会員個々はそうした場を意識することによって、追究すべき課題を得て、追究への刺激を受けるのだと思います。もちろん、そうした場をつくることは音楽表現学会の直接的な目的でないことはよく承知しています。しかし場を意識することによって会員個々の追究すべき課題が明らかになり深まっていくのですから、我々が場をつくることはできなくても場をまもり、場をつくる人を応援することはできます。

なお、ここでいう場とは簡単に言えば「劇場」のことです。ただしハコモノとしての劇場を指すだけでなく、劇場と同様のはたらきをする場をも意味します。またそうしたはたらき自体を場と呼ぶこともあります。

坂東氏の話は、こうした場をつくるのにラッコやコアラ、パンダばかりを重視して運営する動物園と同じことをしてはならないと教えてくれます。音楽

界においては、例えばきちんとした運営方針を立てずにハコモノとしての劇場だけを建設する、あるいは持続的な活動計画を立てずに著名な演奏家を招聘して演奏会だけを催すなどは、ラッコやコアラ、パンダを購入し展示するだけで事足りりとする動物園と同じなのです。旭山動物園における「伝えるのは、命」とおなじような基本テーマが音楽界の個々の場においても必要なのだと思います。

そうしたことを考えながらの大会からの帰り道、たまたま出版されたばかりの平田オリザ『下り坂をそろそろ下る』（講談社現代新書、2016）を読みました。平田オリザは日本を代表する劇作家・演出家で、大阪大学や東京藝術大学でコミュニケーションデザインや文化政策を教え、全国各地で演劇ワークショップを展開しています。この本の内容を簡単に言えば、物的人的資源が減少し続けて経済の右肩上がりはもはやあり得ない状況下の日本で、つまり下り坂を下っている日本で、その状況がもたらす「さびしさ」を日本人が克服して幸せや生きがいを感じるには「芸術」を中心に据えることだという主張です。平田は過去においても『新しい広場をつくる（市民芸術概論綱要）』（岩波書店、2013）や『芸術立国論』（集英社新書、2001年）などにおいても同じ主張をしています。いずれにおいてもその主張にもとづく平田自身の実践例がさまざまに紹介されています。

平田は、芸術を特権的な者だけが創作し鑑賞するものとはとらえずに、人々のコミュニケーションを促進しコミュニティを形成するためのもので、誰にとっても必要なものであり、心の健康のための栄養剤なのだと述べています。芸術をそのようにとらえることによって人々の生活が精神的に豊かになり、地方の街にも活力と魅力が生まれて過疎化が解消し、GDPには現れない持続的な経済活動が保証されると述べています。そうした取り組みの成功例として自身が関わった瀬戸内の小豆島や但馬の豊岡、讃岐の善通寺、東北の女川・双葉などを紹介しています。

平田の場合、演劇を中心とした紹介例ですが、同じパフォーマンスアーツであることで音楽にも深く関係する内容です。「伝えるのは、命」という旭山動物園の基本テーマと同様のものを、音楽表現の場においても意識することこそが、音楽表現学そのものの追究を進めていくのではないかと思います。

新入会員紹介

プライバシーにつき、見えなくしています。

プライバシーにつき、見えなくしています。

日本音楽表現学会後援コンサート等情報

大澤 聡さん 第2回 瑠瑠会コンサート
日 時：2016年8月20日(土) 13:15開演(12:45開場)
会 場：5/R Hall & Gallery (名古屋市千種区)
主な曲目：シューベルト：幻想曲 へ短調 D.940 Op.103、ドビュッシー：『版画』から「塔」、
ベルク：クラリネットとピアノのための4つの小品 Op.5。
趣 旨：岐阜教育大学・岐阜聖徳学園大学教育学部音楽科出身生、教員有志による演奏会
出 演 者：大澤 聡、見田 寛、安田 香 他
入 場 料：無料

久次米 祐江さん 久次米祐江×藪下千晶 ピアノデュオリサイタル
日時と会場：浜松公演 2016年8月27日(土)13:30開場 14:00開演 Yume-hiro hall

東京公演 2016年9月19日(月祝)13:30開場 14:00開演両国門天ホール
料 金：浜松公演 一般2,500円(前売り2,000円) 高校生以下2,000円
東京公演 一般3,500円(門天会員3,000円) 高校生以下2,000円
出 演 者：久次米祐江(ピアノ)、藪下千暁(ピアノ、トイピアノ)
演奏曲目：J. ケージ〈Baccanale〉〈Suite of Toy piano〉〈Perpetual Tango〉 H. カウエル
〈エオリアンハーブ〉 E. サティ〈自動記述法〉〈梨の形をした3つの小品〉 田中聰
〈The Afterworld〉 西風満紀子〈Ach! piano〉

牛渡 克之さん 東北ユーフォニアム・チューバキャンプ 2016
期 日：2016年9月24日(土)～9月25日(日) 1泊2日
会 場：いちのせき健康の森(岩手県一ノ関市)
講 習 料：20,000円(宿泊・食費含む)
主催後援：東北ユーフォニアムチューバ協会、東北吹奏楽連盟ほか
演奏者名：牛渡克之、新井秀昇、大塚哲也、ピーター・リンク

木下 千代さん 木下千代ピアノリサイタル
日 時：2016年10月7日(金) 19:00開演
会 場：いずみホール(大阪)
料 金：3,500円
主催後援：東京芸術大学同声会大阪支部、武庫川女子大学
演奏曲目：ショパン〈アンダンテスピナートと華麗なる大ポロネーズ op.22〉、ラヴェル
〈高雅で感傷的なワルツ〉〈夜のガスパール〉、他

石原 慎司さん 第2回 秋大祭特別オーケストラ音楽会
日 時：2016年10月15日(土) 12:00開演
会 場：秋田大学60周年記念ホール
出 演：秋大祭特別オーケストラ
主な内容：石原慎司指揮による序曲やポルカなどの管弦楽曲やピアノ協奏曲
連絡先：秋大祭特別オーケストラ実行委員会 shudaisaisporchestra@yahoo.co.jp

会員による CD 等リリース

高久 新吾さん 「ベートーヴェン三大ソナタとエリーゼのために」〈高久新吾自らの調律・整音による録音〉
発 売 日：平成28年4月1日
発 売 元：KLMレコード
CD 番号：KLM-8851
製 作：菊池ミュージックラボ

島野 聖章さん バッハ/ベートーヴェン/ブラームス ピアノ作品集
収録曲 J.S. バッハ：フーガト短調 BWV578(高橋悠治編曲) 他
ベートーヴェン：ピアノソナタ第14番嬰ハ短調 Op.27-2「月光」、他
ブラームス：2つのラプソディ Op.79 他。
価 格：2000円 発 売 日：2016年6月26日
CD 番号：UGCD003 制作・販売：うぐいす音楽工房
注文受付メール：info@sound.gonna.jp

会員による新刊

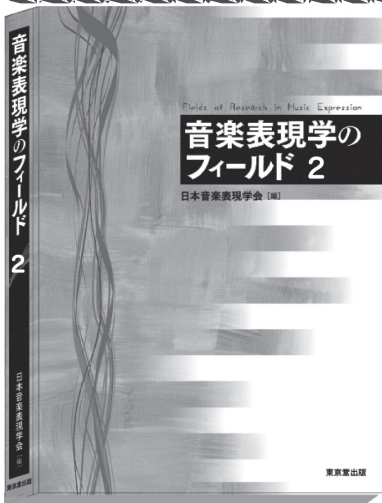
- { 田中 宏明さん 『小学校音楽科歌唱共通教材《全 24 曲》～簡易伴奏つき』
木村 貴紀さん 出版社：圭文社 A4 版・全 70 ページ
定 価：1,500 円＋税
ISBNコード：78-4-87446-079-5
発行年月日：2016 年 3 月 10 日
- { 小野 亮佑さん 『バイエル』原典探訪知られざる自筆譜・初版譜の諸相
多田 純一さん 定 価：3,240 円 (本体 3,000 円)
長尾 智絵さん 判型・頁数：A4・128 頁
発行年月：2016 年 3 月
ISBNコード：9784276143852
出版社：音楽之友社
- { 小畑 郁男さん 『究極の読譜術——ここに響く演奏のために——』
佐野 仁美さん 定 価：1,500 円
発行年月日：2016 年 3 月 20 日
出版社：ハンナ
- 舟橋 三十子さん 『クラシックのからくり～「かたち」で読み解く楽曲の仕組み～』
出版社：ヤマハミュージックメディア
定 価：本体 1,700 円＋税
発行年月日：2016 年 4 月 21 日
JANコード：4947817252153 ISBNコード：9784636916959

教員公募情報 (主な項目のみ)

- 沖縄県立芸術大学 1 職名・人員 教授、准教授または講師 1 名
2 専門分野 作曲、ソルフェージュ
3 所属専攻 音楽学部音楽学科音楽表現専攻
4 担当授業科目 音楽学部：作曲実技 作曲理論 ソルフェージュ 和声 楽式論
大学院音楽芸術研究科：作曲実習 楽曲分析研究
6 採用予定日 平成 29 年 4 月 1 日
8 提出期限 平成 28 年 9 月 9 日 (金) 必着
13 問合せ先 沖縄県立芸術大学 事務局 教務学生課 (担当 甲斐)
FAX 098-882-5033 メールアドレス general@okigei.ac.jp
- 山梨大学 1 職名・人員 准教授 1 名
2 専門分野 ピアノ
3 所属 芸術文化教育講座 (教育学部芸術身体教育コース及び大学院教育学研究科)
4 担当授業科目 学 部：ピアノ実習、ピアノ演奏研究、ピアノ特別研究、ピアノアンサンブル、
全学共通教養科目、教職実践演習、他
大学院：芸術文化教育学研究、器楽特論、器楽特論演習、他
5 採用予定年月日 平成 29 年 4 月 1 日
6 応募締切日 平成 28 年 9 月 9 日 (金) 必着
* 応募資格、提出書類等詳細は研究者人材バンクデータベース <https://jrecin.jst.go.jp/> の
当該応募要項を確認。

『音楽表現学のフィールド2』発刊間近

会員特別価格による購入受付開始！



(完成イメージ)

本学会論文集『音楽表現学のフィールド2』（A5判 ca.300頁 予定価格 3,500円）が東京堂出版より9月中旬に刊行されます。第1部「音楽表現の理念と技法」には、ゲスト執筆者の能楽師・重要無形文化財（能楽）保持者 河村晴久氏に書き下ろしていただいた論考をはじめとし、本学会大会で5年にわたって継続的に行われたワークショップにもとづき、各回の情報提供者が執筆された論考が収められています。第2部「音楽表現学の可能性」は、音楽表現学の多様な分野（＝フィールド）を示して公募した論文を掲載しています。

特別販売価格ご購入のご案内

本学会会員には会員特別価格でのご購入申込を受け付けます。お一人でも多くの会員の皆様にご購読いただき、本書をきっかけとして、皆様の中に「音楽表現学」をめぐる新たな対話が生まれ、交流が広がれば大変嬉しく存じます。会員特別価格：市価 × 0.9 - α で 3000円程度 の 予定

* α は学会員に是非読んでいただきたいという気持ちを形にしました。(税・送料込)

購入申込：p.23の申込書を参照の上、メールで事務局までお申込みの上お振り込み下さい。振込確認後送付します。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

送金：同封の専用振込票または郵便局備付の振込票をお使い下さい。

加入者：日本音楽表現学会

口座：01370-6-78225

「音楽表現学のフィールド2」編集委員会
委員長 小野 亮祐

所 収 論 文 タ イ ト ル	第1部 音楽表現の理念と技法	第1章 日本の伝統芸能における音楽表現の理念と技法 第1節 「能」における音楽表現の理念と技法
		第2章 楽器と演奏表現の歴史 第1節 アルペジオーネ再発見 第2節 《クラヴィーアソナタ》(KV331)における演奏様式の歴史の変遷
		第3章 管楽器による音楽表現のための技法 第1節 サクソフォンから見た「音・音楽」の様相 第2節 フルートから見た「音・音楽」の様相
		第4章 指揮者に求められる表現技法 第1節 指揮者の仕事 第2節 指揮の基本的な表現技法を得るために
		第5章 音楽表現における「合わせ」の諸相 第1節 ピアノ奏者の視点から見た「合わせ」の諸相 第2節 箏曲の視点から見た「合わせ」の諸相
		第6章 身体と音楽表現 第1節 身体表現のための西洋音楽の感じ方・捉え方の基本事項について 第2節 「柔軟な構え」に基づく発声訓練法
		第7章 ボーダレス社会における音楽表現 第1節 メディアの変遷と音楽 第2節 電子楽器から見た現代の音楽の様相
		第8章 現代社会における創作表現 第1節 作曲家の立場から考える古典・創作・表現者 第2節 ピアニストの立場から考える古典・創作・表現者
		第9章 震災と音楽表現 第1節 宮城で見られた音楽表現の諸相 第2節 被災地がつながる音楽表現 第3節 震災を通して見えたもの
		第2部 音楽表現学の展開
第2章 ヘンデル《メサイア》における歌詞の扱いと音楽		
第3章 音楽文化史におけるリストのオペラ編曲		
第4章 映画『密輸船』のプリペアド・ピアノ		
第5章 子どもの音楽表現という様式		
第6章 音楽的音高に対する言語的符号化の実態		
附表	第1部 音楽表現の理念と技法	東日本大震災関係資料 1. 東日本大震災後の音楽慰問活動 2. 東日本大震災後の「歌」による音楽慰問活動 3. 東日本大震災後の「器楽」による音楽慰問活動 4. 沿岸市町村の慰問演奏活動回数と文化施設被災状況

事務局からの重要なお知らせとお願い

1. 年会費の納入について

- ・年会費未納の方には今回ニューズレターとともに、「郵便振込票」を同封しています。過年度分が未納の方の振替票には、未納年度に印を入れてあります。行き違いご送金済みの場合はご容赦ください。
- ・学会は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催など、さまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。なお、学会では原則として領収書発行はいたしませんので、無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、「振替払込請求書兼受領証」(ATM ご利用の場合は「ご利用明細票」)に、納入年度をメモの上、保存されることをお勧めいたします。

2. 住所・所属・電話番号・メールアドレスの変更は、速やかにお届けください。

- ・学会からの送付物はお届けいただいた連絡先に送っていますが、転居先不明等で返却される封筒が少なからず存在します。そのたびに所属先や、時には入会時の「推薦者」に問い合わせ再送しています。このような手間と経費を削減するために、みなさまのご協力を切にお願い申し上げます。
- ・連絡先変更は、下記アドレスから「会員情報フォーム」に変更事項を入力いただくか、事務局までメールで直接お知らせください。
- ・会員情報フォーム：
<http://www.music-expression.sakura.ne.jp/form/postmail2.html>、
- ・事務局メールアドレス
music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

3. ニューズレターへの投稿

- ニューズレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見など、ご寄稿ください。
- ・研究ノート、随想など：図表等を含めて刷り上

がり1頁以内。

- ・コンサート情報：学会後援のものを掲載します。
- ・新刊案内・CD/DVD リリース：会員による刊行物の紹介。購入方法なども含めてお知らせください。
- ・その他：所属されている他学会の情報などもお寄せください。
- ・投稿受付は随時、ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

メール等で事務局までお申し込みください。以下の代金は、到着後郵便振替でお願いします。

会員価格：Vol.2～Vol.3 は1部 2,500 円+送料

Vol.4～Vol.13 は1部 3,000 円+送料

一般価格：Vol.2～Vol.3 は1部 3,000 円+送料

Vol.4～Vol.13 は1部 3,500 円+送料

大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせください。なお、Vol.1 は残部がありません。

5. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・機関誌『音楽表現学』への投稿：
『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。年度末などに業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。なお、投稿〆切は、例年5月31日です。
- ・大会での発表：
本学会ならではの生の音楽表現を含めた研究発表の機会をご利用ください。なお、応募〆切は、例年5月31日です。
- ・コンサートの後援・協賛：本学会ホームページのリンクから〔コンサート等公演/協賛申請フォーム〕にて申請してください。各項目は最大39文字です。行数が多い場合にはスペースの関係で一部分を修正したり削除する場合があります。ご了承ください。

1【各種書式】

1. 「入会申込書」

入 会 申 込 書	
日本音楽表現学会に入会を申し込みます。	
	年 月 日
1) 氏 名 (ふりがな) :	_____
2) 専門分野 :	_____
3) 所 属 : (あれば)	_____
4) 自宅住所 :	〒 _____
5) 連絡先 : (上記と異なる場合) 〒	_____
6) 連絡先 Tel. :	_____
7) 連絡先 Fax. :	_____
8) e-mail :	_____
9) 推薦者名 (学会員・1名)	_____
10) 日本音楽表現学会に期待されること、ご要望等を150字程度でお書きください。 (入会承認後ニューズレターの新入会員紹介の記事にさせていただきます。)	

[備考]

- ・「入会申込書」をメールまたは郵便で送付いただきましたら、事務局から年会費納入のための郵便振替票を送ります。年会費ご入金の確認をもって手続きを進め、入会承認後、「入会承認のお知らせ」文書をお手元にお届けします。
- ・入会申込書はHPからもダウンロードできます。
- ・学会からの連絡（印刷物お届けなど）は、ご記入いただいた「連絡先」に届けます。
- ・お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。

2. 「後援願」〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕にて申請ください。

「後援願」は、本学会ホームページのリンクから〔コンサート等後援・協賛申請フォーム〕に必要事項を記入して申請していただきますよう、ご協力よろしく願いいたします。フォームの操作がむずかしいときには、同じ項目をメール本文にコピーしてお送りください。

3. 特別販売価格 申込書

『音楽表現学のフィールド2』	
会員特別価格購入申込書	
	年 月 日
『音楽表現学のフィールド』の購入を下記のとおり申し込みます。	
購入冊数	冊
金額	予定特別価格 (3,000 円) × 冊 = 円
氏 名 (ふりがな) :	
住 所 :	〒 _____
送付先 (上記住所と異なる場合はご記入下さい)	
連絡先 Tel. :	
連絡先 Fax. :	
e-mail :	

4. その他 他の書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

『音楽表現学のフィールド2』読后感想文募集

本紙 21 ページでお知らせしましたように、9月に日本音楽表現学会編『音楽表現学のフィールド2』が上梓予定です。学会のNL2016-No.2では会員の読后感想文を募集します。『フィールド2』全体について、あるいはその中の章・節について感想文をお寄せ下さい。

- ・原稿サイズ A ニュースレター1頁 文字数 23字×42行×2段=1955字
B ニュースレター半頁 文字数 23字×42行×1段=966字
- ・応募申込み：10月15日(土) 〆切
- ・完成原稿：11月5日(土) 〆切
- ・問い合わせ先：学会事務局 music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

日本音楽表現学会第15回大会のご案内

会 場：東京音楽大学
(東京都豊島区南池袋3-4-5)
会 期：2017年6月17日(土) —18日(日)
実行委員長：岡田敦子東京音楽大学教授(ピアノ)
東京音楽大学へのアクセス

JR「池袋駅」東口または「目白駅」より徒歩約15分
西武池袋線・東武東上線「池袋駅」より徒歩約15分
地下鉄丸ノ内線・有楽町線「池袋駅」より徒歩約15分
副都心線「雑司が谷駅」1番出口より徒歩約5分



A館100周年記念ホール

2016年度役員・委員等一覧

<p>会 長：後藤 丹 副 会 長：小西 潤子 加藤富美子 事 務 局 長：豊田 典子 財 務 局 長：應和 恵子 理 事：木下 千代(事務局担当) 海津 幸子(財務局担当) 藤原 嘉文(総務担当) 安藤 珠希(総務担当)</p> <p>編集委員会： 委員長 中村 隆夫 副委員長 吉永 誠吾 委員 尾見 敦子 上山 典子 齊藤 武 澤田まゆみ 志民 一成 曾田 裕司</p>	<p>『フィールド』編集委員会： 委員長 小野 亮祐 副委員長 安田 香 同 菅 道子 委員 奥 忍 北山 敦康 小西 潤子 杉江 淑子 三島 郁</p> <p>著作権ワーキング： 代表 権藤 敦子 委員 近藤 晶子 中村 滋延 福本 康之</p>	<p>選挙管理委員会： 委員長 鈴木慎一郎 委員 笹野恵理子 西野 晴香</p> <p>監事： 渡会 純一 小畑 郁男</p> <p>会長諮問会議：安藤 政輝 佐々木正利 杉江 淑子 安田 香</p> <p>デザイン室長：奥 忍 参事(事務局) 似内裕美子 林 萌 近藤 晶子</p>
--	--	--

編 集 後 記

皆様お元気でお過ごしでしょうか。「MEM大会」から2ヶ月余り経ちました。『北の国から』を想わせるどこまでも広いのどかなキャンパスでの大会、たくさんの方々にご参加いただき大盛会でした。季節外れの低温に驚かされましたが、会場の中は興味深い様々な発表や白熱した議論で盛り上がり、とてもホットな大会でした。今回の誌面は「MEM大会」特集。写真グラビアのページをはじめ関連記事が満載です。7月より後藤新会長のもと新しい理事体制になりました。これまで同様、音楽にあふれた開かれた学会であり続けられるように微力を尽くしたいと思います。9月には「音楽表現学のフィールド2」が発刊されます。感想文も募集します。みなさん、奮ってご応募下さい。(藤原 嘉文)